

[普及事項]

新技術名：秋田県におけるブドウ赤色大粒品種「クイーンニーナ」の特性（平成18～22年）

研究機関名 秋田県農林水産技術センター果樹試験場  
天王分場班

担当者 長澤正士

[要約]

ブドウ「クイーンニーナ」は、県中央部で10月中旬に収穫できる大粒の赤色系品種である。無核化が容易であり、糖度が高く、微酸性で食味が良く、崩壊性で硬い肉質であるため高級感がある。

[ねらい]

県内では、近年、ブドウの大粒品種の無核栽培が普及してきている。しかしながら、現在試作されている赤色の大粒品種は、無核化がしにくい、着色が悪いといった問題があり、本県に適合した品種がまだ見いだされていない。そこで、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所が育成した赤色大粒品種「クイーンニーナ」の本県における適応性について検討する。

[技術の内容・特徴]

- 1 「クイーンニーナ」の果皮色は赤色で、収穫期は潟上市天王の簡易雨よけ栽培で10月中旬であり「ピオーネ」とほぼ同時期である（写真1）。
- 2 1粒重は15g程度と大粒である。糖度は20%前後と高く、酸度は0.4g/100ml程度で甘みを強く感じる（表1）。「安芸クイーン」のような香気があり、肉質は硬く、崩壊性で高級感がある。
- 3 2回のジベレリン処理（満開期と満開10日後）により、ほぼ100%無核化する（表1）。
- 4 目視による調査では、無核栽培では、「安芸クイーン」、「ゴルビー」と比較して着色が優れる。

[普及・参考上の留意事項]

- 1 主穂の先端が二股、へら型等の奇形になる場合があるが、無核栽培では岐肩を利用することで対応できる（表2、写真3および4）。
- 2 短梢せん定では、花芽分化期である前年夏の日照時間が少ないと花穂の着生が長梢せん定と比較して劣り、減収する場合がある（表2）。
- 3 果頂部の裂果は、摘粒前の花冠の除去によりほとんどみられないが、夏期に高温で土壤の乾燥が著しい年には、果てい部の裂果が発生する（表1、写真2）。

[具体的なデータ等]



写真1 収穫直前の「クイーンニーナ」 写真2 果てい部の裂果（「シャインマスカット」の例）

表1 「クイーンニーナ」の果実品質（無核栽培）

年次	果房重 (g)	果房長 (cm)	着粒密度 (粒/cm)	1粒重 (g)	糖度 (%)	酒石酸 (g/100ml)	無種子化率 (%)	裂果率 <sup>z</sup> (%)
2006	327	-	-	13.1	23.1	0.384	100	14.9
2007	446	16.2	3.3	13.1	22.5	0.317	100	2.7
2008	411	14.5	3.9	12.5	22.1	0.325	100	26.4
2009	543	15.1	3.2	20.5	18.9	0.425	100	12.0
2010	490	14.3	3.8	15.8	19.9	0.349	100	14.6

<sup>z</sup>果てい部の裂果率

表2 「クイーンニーナ」に対するせん定法の違いが花穂着生と花穂長に及ぼす影響（2010）

せん定法	調査新梢数	第1花穂着生率 (%)	平均第1花穂長 (cm)	第2花穂着生率 (%)	平均第2花穂長 (cm)	4cm未満の花穂の割合 (%)	奇形 <sup>x</sup> 花穂率 (%)
長梢 <sup>z</sup>	136	80.1	16.6	51.5	11.9	1.7	34.4
短梢 <sup>y</sup>	73	34.2	8.0	6.8	5.3	6.7	0

<sup>z</sup>2本主枝一文字長梢結束せん定、<sup>y</sup>2本主枝一文字短梢せん定、<sup>x</sup>二股、へら状など（写真3および4）



写真3 花穂の奇形（二股状） 写真4 花穂の奇形（へら状）

[発表文献等]

なし